

No. 314

全 日 本 仏 教 会

12/60



天台宗ハワイ別院

天台宗ハワイ別院は、ホノルル市ジャックレーンに昭和48年に開創された。日本語学校、ハワイ美術院などの文化活動に力を入れており、また、ハワイ七福神の中心にもなっている。なお、ホノルルに3ヶ寺ある。(写真提供・天台宗)

全日本仏教会

第32回全日本仏教徒会議

徳島大会

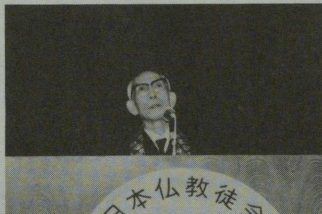
大鳴門橋完成を記念



盛大に第32回日本仏教徒会議の開会式

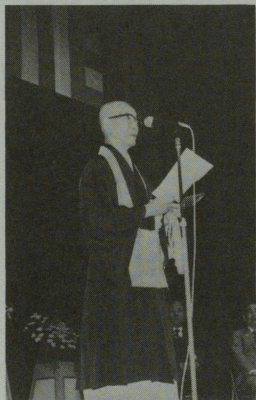
第三十二回全日本仏教徒会議徳島大会は、去る十月二十四

日、大鳴門橋完成を記念して徳島市・郷土文化会館を会場に開催された。本年度は「二十一世紀に向けて人類のしあわせと世界平和を求めて手をつなごう」全仏教徒はこぞって慈悲の実践活動を進めよう」を大会テーマに、県内外の僧、信徒ら約八百五十人が出席、四つの部会で熱心な討議を行い、実りある大会であった。



へ式典

午前九時四十五分、野口善雄・全仏事務次長の開式のことば、続いて矢萩信頭・全仏事務総長による開会宣言で大会の幕があけた。まず安立清雄・大会実行委員長により大会旗が入場、藤井實應・大会総裁（全仏会長・浄土門主）導師のもと法要が執り行われた。続いて藤井大会総裁式辞、阿部慶昭・全仏理事長挨拶（矢萩事務総長代読）、大橋寛阿・大会長、



（徳島県仏会長）挨拶があり、次に来賓として柳川覚治・自由民主党文教局次長、三木申三
あいさつする藤井大会総裁（左）と基調講演の本多師（右）

・徳島県知事（代理）、三木俊治・徳島市長（代理）が各々祝辞を述べた。また韓国仏教界から呉緑園・韓国仏教宗団協議会会長（大韓仏教曹溪宗総務院長）ら十八人が大会に出席し、呉会長が挨拶した。式典はこの後祝電披露で終了し、ただちに基調講演となった。

本多師が基調講演

へ基調講演

午前十時四十分から全仏前理事長の本多賢純師（真宗大谷派宗務顧問会議長）が「世の中安穏なれ」と題して講演した。まず、「人間の願いは昔も今も変わらない。いつの時代でも本当に安らかに楽しく生きたいものだ」と述べ、科学技術の進歩に伴い生活も便利になった反面、人間が絶滅するような兵器の発展もあると指摘した。人を愛し慈しんでいかなければならない人間が、兵器をつくり人を殺すのであり、これほどの大罪はないとし、正しい事が正しく行われていない時、仏の心である安らぎを広めなければならぬと述べた。そして人間が本当の人間の心に帰るためには、人間の道を明らかに私達の前に示して下さる仏陀の言葉を聞いていくことが大切であると結んだ。

へ総会

続いて午前十一時三十分より野田英隆・全仏総務局長による開会の辞で始まった総会は、まず仮議長に矢萩事務総長を選び、議長団の選出を行った。その結果、議長に江連俊則・埼玉県仏教会副会長、副議長に鈴木龍珠・大阪府仏教会会長、

岩崎宗秀・東京都仏教連合会理事長が選ばれ、議長挨拶の後、議事を開始した。

最初に中村昌之・全仏組織局長が大会幹事を紹介し、河野亮永・大会幹事長が挨拶を行った。次に中村局長から、議事運営規則並びに提出意見発題取扱規則の説明、各部会意見発題の上程と部会編成について説明した。次に、矢萩事務総長から全仏事務報告を行い、午前の総会を終了した。

昼食休憩時にはアトラクションとして渦潮太鼓、宗教舞踊、阿波踊りなどが行われた。また、午後の総会に先立ち特別講演として、朴炯喆・大韓仏教天台宗元老院長が「韓日両国の仏教交流が世界平和に寄与する道」と題して講演した。



アトラクションの「阿波踊り」

午後の総会は三時より開会された。議長挨拶があり議事に入った。まず各部からの報告があり、続いて塩入亮達・宣言決議文起草委員長から「宣言決議文」案が発表され、参加者の拍手で原案通り承認された。最後に野田局長の閉会の辞で総会を終了し、ただちに閉会式となった。

＜宗派代表者懇談会＞

午前の総会終了後、十一時半から昼食を兼ねて宗派代表者懇談会が行われた。藤井門主をはじめ各宗の代表者約二十名が出席した。

懇談会は、川島庶務部長が司会者となつて進められた。まず川島部長から税務問題の報告があり、緊急な税務問題が発生した場合への協力要請があった。また中村組織局長からは同和問題の報告があり、「部落解放基本法」制定に向けての協力要請があった。さらに加藤海晃・ルンビニー実行委員長より、ルンビニー園の復興に関する報告があった。

第一部会

第一部会は「慈悲の実践活動」をテーマに、部会長若林隆光師、副部会長渡慈秀師によって進められた。

講師には作家で浄土宗大吉寺住職の寺内大吉師が、慈悲についての実践経験から心と心のふれあいの話しを約一時間講演した。参加者から、心のふれあいが実際の効果の上にもあらわれるという話し、布教活動の方法についての質問などがあ

った。

第二部会

第二部会は、「生涯教育と寺院活動」をテーマに、近藤隆敬部会長、岡村圭真副部会長、本間孝道助言者の各師によって進められた。まず山田法胤・法相宗

務長が「仏教は生涯教育」と題して、人間は未来の世界を考えて教育していかなければならないと意見発題。次に東京ブティストクラブの山田一真師が「和」と「思いやり」の精神を学校教育により多く採り入れるよう、仏教界は積極的に国に働きかけよう」と題して意見発題し、公共機関が仏教的な考え方を排除する傾向があると指摘した。総括として、人間の一生を通じてうける家庭教育、学校教育、社会教育に関心をもち、あらゆる機会に積極的に寺院活動の中にこれを取り入れ実践活動していこうと結んだ。

第三部会

第三部会は、「いのち（人権問題）」をテーマに、新井智清部会長、福島誠浄副部会長、驚山諦住助言者の各師によって進められた。近藤寛玄師（高野山真言宗）が「いのちのち」について、横山尚空師（臨済宗妙心寺派）が「僧侶の使命」、小峰一允師（真言宗智山派）が「いのちの問題」、新聞智照師（日蓮宗）が「全

人類的な視野に立ち人間尊重を」、橘了法師（真宗大谷派）が「われいま真の仏

寺院用具

浅草通り五鳳会加盟店

株式会社 決田商店

東京都台東区寿2-10-9 (地下鉄田原町駅前)

電話 代表 (841) 4965

教徒たらん」を各々意見発題した。また助言者の驚山師より、眠れる宗教者から目覚める宗教者への自覚をもち「同宗連」の本質を再確認し、行動をおこして互いのいのちを生かそうと述べた。そして、「部落解放基本法」制定に向けて取り組むことを部会決議とした。

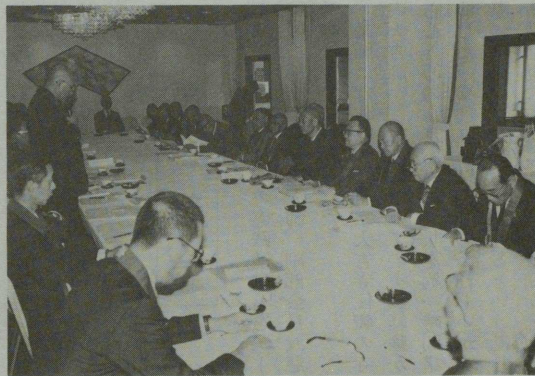
第四部会

第四部会は、「仏教徒の救援活動のあり方について」をテーマに、田中光成部会長、庄野光昭副部会長、有馬実成助言者の各師の進行によった。まず、曹洞宗ボランティア会の有馬師より救援活動の実態について話しを聞き、救援活動の種類やボランティアの資質向上の必要性が

強調され、救済される側の人権の最優先した活動を訴えた。次に意見発題として、全日本仏教青年会の伊藤佳通師が「国際救援活動連絡協議会の設立を」と題して行い、より効果的な活動をするために仏教徒によって救援活動をしている団体は連絡協議会を設立したいと述べた。

〔閉会式〕

午後四時より閉会式となった。はじめに大会副会長でもある安立大会実行委員長が挨拶し、次に、大会参加者を代表して小野田章神・愛媛県仏教会会長の挨拶があり、木辺宣慈・真宗木辺派管長の発声で万歳三唱、井上日宏・全仏国際文化局長閉会の辞で、第三十二回全日本仏教徒会議徳島大会は、成功裡に幕を閉じた。



都道府県仏代表者会議開く

第三十二回全仏大会の前日、二十三日午後二時から、徳島市東急インホテルを会場に都道府県仏教会代表者会議が開催された。

斎藤組織部長の司会により会議は進められ、最初に矢萩信顕・全仏事務総長導師のもと三帰依文を唱和した。引き続き矢萩事務総長、安立清雄・全日本仏教徒会議徳島大会実行委員長、大橋寛何・徳島県仏会長の各師の挨拶があつて議事に入

東急インホテルの代表者会議

を部会テーマとして真剣に討議し合った結果、次のように確認した。

一、大乘仏教は自利・利他の精神に基づいて出発した。人類のしあわせといい、世界の平和というも真の実現は慈悲によってはじめて可能である。われわれは一

大会宣言決議文

と世界の平和を求めて手をつなごう
―全仏教徒はこぞ慈恵の実践活動を
を進めよう―を大会テーマとして四部
会に分かれ、各分科会においてそれぞ
れ、「慈悲の実践活動」、「生涯教育と
寺院活動」、「いのち（人権問題）」、「
仏教徒の救援活動のあり方について」

人一人がその処に於て慈悲の実践にまい
進ずることを誓願する。

二、人間の一生を通じて受ける家庭教
育・学校教育・社会教育に強い関心を持
ち、あらゆる機会に積極的に寺院活動の
中にこれを取り入れ、実践活動につとめ
る。

三、我々仏教徒は、「いのち」が本
当に大切にされる社会の実現をめざし
て、「部落解放基本法」制定要求の運
動を自らの生き方の問題として取り組
む。

四、仏教徒に救援活動団体が、情報
交換をするための連絡協議会を設け、
仏教徒の力を結集し、より積極的にか
つ効果的な救援活動を展開する。

ここにわれわれ仏教徒は、互いにい
のちを尊重しあい、手をたずさえて、
慈悲の実践活動を強力に推進する。
以上宣言決議する。

昭和六十年十月二十四日
第三十二回全日本仏教徒会議徳島大会

①ルンビニー園の復興について
井上国際文化局長より資料にもとづき、
ルンビニー復興日本仏教徒委員会におけ
る実行計画の進行状況について報告が行
われた。

②税務問題と靖国神社問題について
小山時局対策部長より最近の税務問題
の説明と、去る九月二十七日付けをもつ
て自由民主党政務調査会税制調査会に対
して、収益事業範囲の縮小、金融資産の
利子非課税の堅持、収益事業に対する法
人税率の引き下げ、の三点について慎重
な取扱いと特段の配慮方を文書をもって
申し入れたこと、また、靖国問題について
は、首相及び閣僚の靖国神社公式参拝に
対して反対声明を八月十二日付けで内閣
総理大臣宛申し入れたことを報告した。

③同和推進について
中村組織局長より「部落解放基本法制
定要求国民運動」について説明が行われ
署名運動の協力を要請した。

④その他
各都道府県仏代表者より種々意見発表
があり、最後に野口事務次長より閉会の
挨拶があつて全ての議事が終了した。

御 礼

第三十二回全日本仏教徒会議徳島大
会の開催にあたり、ご協力いただき
ましたこと厚く御礼申し上げます。

(財)全日本仏教会

同宗連の同和研修会

町田宗夫師が基調講演

同宗連による第九回同和研修会が、去る十一月一、二日の両日、滋賀県大津の天台宗総本山延暦寺において、「同和問題への宗教者・宗教者団の関り」を骨子とした「変革」を主題に開催された。

一日は、午後一時半より開会式が行われ、つづいて二時より、曹洞宗元宗務総長、全日本仏教会元理事長であった町田宗夫師（曹洞宗禅昌寺住職）による「プリンストンからナイロビへ」という基調講演が行われた。講師の町田師は、いわゆる「町田発言」によって部落解放同盟から五回にわたって糾弾を受け、これをもとに自らの真摯な懺悔を根幹として、

同和問題への取組みの姿勢を切々と語った。

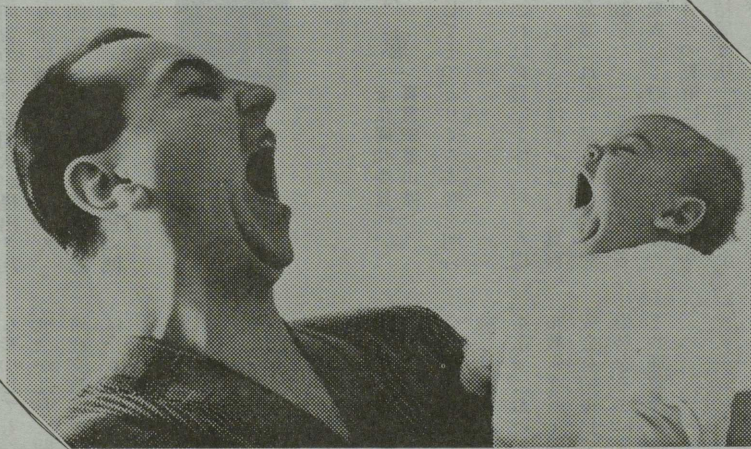
「プリンストンからナイロビへ」という題名が示すように、まず、一九七九年九月五日にアメリカのプリンストンで行われた第三回世界宗教者平和会議（基調テーマ「世界共同体を志向する宗教」）の部会において、「我々は日本の部落民であるとか、インドのアンタツチャブルのような人々の苦境に深い懸念を持っているべきである」（世界宗教者平和会議日本委員会発行「部落差別問題取り組みの基本方針」二七頁引用）という報告文に対し、町田師が日本には差別はないとして、「日本の部落民」の削除を要求した、いわゆる「町田発言」が起ったことにふれた。そして、一九八一年一月から計五回にわたる解放同盟からの糾弾を経て自らが差別問題にめざめ、特に第三回糾弾会において「あなた自身をよく掘り下げてみて下さい」という助言を受けて一心に自らの心の奥底を掘り起こし、無意識のところに潜んでいる差別心が問題であると確信して、同和問題の解決こそが我々宗教者の真の使命であると自覚し、昨年の世界宗教者平和会議（ケニアのナイロビ）で「反省と決意」を述べるまでの過程を、町田師は深い自己反省をこめて語っていた。



基調講演をする町田師

(写真提供・真言宗智山派)

生活は、体温。



ゆとり、ふくらまそうね。中期国債ファンド

笑っていますか、大きな声で。持っていますか、口ずさむ歌。いきいきエブリデイ。ぬくもりと、ゆとり。大切な貯蓄も、そんな暮らしのためのものでありたいですね。いかがですか、有利さで便利さで、いま注目の中期国債ファンド。毎月複利でふえつづけ、しかも出し入れが自由。みなさんの資金も、上手に活かすなら、ひとまずは中期国債ファンドへ。夢が、ゆとりが、ふくらみます。弾みます。

預ける貯蓄から、ふやす貯蓄へ。

山一証券

〒104 東京都中央区八重洲2の4の1
☎(03)276-3181(代表)

※中期国債ファンドの設定・運用は、山一投信委託 ※お申込みの際は受益証券説明書をご覧ください。

いわゆる真言宗系と称される宗派は多数に及ぶが、その連絡機関として真言宗各派総大本山会がある。この会は通称十八大本山会ともいわれる通り、厳密には真言宗系の総てを網羅しているとはいえないが、各派間の連携を保つ唯一の機関である。しかし、その目的は「この会は、加盟総大本山の連絡協調をはかり、相互の親睦を深め、宗風宣揚に一致協力することを目的とする」とあり、全真言宗に関わる問題であつても、すべてに対応できる活動機関ではない。昭和五十四年、全宗教界が同和問題へのかかわりをもつこととなり、真言各派もようやく取りくみをはじめたが、全真言宗としての連携はなかなかできない状態であつた。

真言宗実践双書に関する会議
昭和五十六年、真言宗法儀研究会（任意団体）から発行された『真言宗実践双書』（全九巻）に差別記載があるということが宗内教師から指摘された。この書籍は真言宗における実用的な法儀の解説書であるが、その第一巻・二巻で江戸時代の戒名のつけ方に関する文献を詳しく紹介しており、その方法が差別を拡大すると確認されたものである。編集者は高野山真言宗及び御室派に属し、寄稿者に智山派・豊山派の教師が参加していたため、関係四宗派が連絡をとり合い、標記の会議を結

成することとなつた。以後、四宗派の会議は編集者や出版会社を含めて、ほとんど毎月開催され、宗派・編集者の反省、図書の回収、研修会の開催等とりくみが続けられた。この間、各派当局者が必ず出席していたが、殊に事務局を担当された御室派には大変な高配をいただき、常に宗務総長が陣頭指揮に当られ、担当課長等が円滑な運営を図られた。

同和問題に関する真言宗四宗派
連絡協議会

同和推進のために

全真言宗としての動き

『実践双書』に関するとりくみは、昭和五十九年六月一日に行われた焼却と懺悔立誓式をもって一応の終結をみた。しかし今後も真言宗全体に関するとりくみを続けなければならないということであり、これまでの会議を発展的解消し、新たに標記の連絡協議会を結成することとなつた。当時の共通課題としては、諸々の教理教典の点検があり、殊に『三和讃』の差別表現に関する目先の課題があつた。しかし、その直後の六月三日付朝

日新聞に『性霊集』の差別表現を指摘した記事が掲載されたため、この問題が緊急にとりくまねばならない重要課題となつたのである。

真言宗各山会同和委員連絡会議

御承知の通り性霊集問題は、同宗連・全日仏・真言宗各山会及び真言宗各派に対し、解放同盟の緊急質問状が提出されたことにより全宗教界の問題となつた。各団体・教団は、各々の教団の問題としてこれをとらえ、各々の教祖・宗祖に関

全真言宗への動き

その後、四宗派連絡会議は意見交換を続け、智山派の提案により、各派の研究者に出席を求めることとなつた。各派が各々研究を進めているが、その方針、方法等について情報交流をすることがその目的である。本年七月の第一回研究会の結果、第二回は各派の研究者にも参加してもらふこととなり、合同研究会が九月に開催された。今後もこの研究会が九月に開催され、性霊集問題を中心に全真言宗の課題にとりくんでいくことで意見の一致はみているが、その運営方法については、いかに全真言宗の活動にできうるかが新たな課題となつている。

栗山明憲（全仏同和委員 真言宗豊山派）

わる指摘としてそのとりくみ姿勢を明らかにされた。

しかし、これは真言宗全体に対する根本的な指摘であることは否めない。真言宗各山会は急遽これを討議するため標記の会議を設置した。二回目の会議では各派の見解を発表して討論することになつてしたが、各々の見解には相当の隔たりがあつた。結局は統一見解を出すには至らず、各派がこの会議をふまえて各々見解表明をすることとなつた。

性霊集問題にしても、差別戒名問題にしても、これは現在の問題であると考えている。同和問題のとりくみは、現在の宗派がそれと同じ差別をしていないか、どうすればよいかを真剣に討論し行動する場であればならない。本宗派においても、近日、宗学研究所・布教研究所・同和推進委員会の合同研究会を招集しているが、ここでも基本姿勢をそこに置いて、活発な意見交換と共通認識を得たいと願っている。

悪魔

帳七メ職住

ある日、カヨちゃんはママの鏡で遊んでいました。鏡を二枚、向い合せて立てると、鏡が鏡を写しあって中にトンネルができました。

「すごいわねえ。このトンネルどこまで続いているのかしら。」
のぞきこんで見ると、そのトンネルの奥の方で何かの影が動いたようでした。

「あら、何かしら。」
その影はトンネルを通して二枚の鏡の間に立ちました。

「こんにちは。」
「あんた、誰？」
「オレ、悪魔さ。」

よく見ると黒い体に尻尾がはえて、とんがり耳の、絵本なんかによく出てくる悪魔にそっくりでした。でも、どことなく間の抜けた感じですよ。
「ねえ、悪魔って悪くってこわいんでしょ？」

カヨちゃんは恐る恐る聞きました。
「そうさ。」
その悪魔はえらそうに胸をそらししました。

「でも、何でそんなところから出てきたの？」

「うん、実はとじこめられているんだ。悪魔はもじもじして言いました。「何か悪いことしたの？」」「うん、えーと、悪いことするのがオ

レの仕事だろう？」
「そういえばそうね。」

「ところがさ、オレがとりついた人間は皆、いくら頼んでも悪いことしないし、ぜんぜん不幸にもならないんだ。」
「あんたね、自分のお仕事、ちゃんとしなきゃだめじゃないの。」

悪魔はシヨンボリうなだれました。カヨちゃんは何かかわいそうになりました。

「ねえ、元氣だしなさいよ。そのうちうまくいくわよ。あ、そうだ、あたしにとりついてみる？」
「うん、でもねえ。」

「ほんと、はつきりしないわねえ。お仕事する気あるの？」
悪魔は何か強引にカヨちゃんにとりつかされてしまいました。しかし、カヨちゃんはいくら好きになつただけで、かえってお友達がふえたりしていません。不幸のかけらもありません。

「あんたってきっと才能がないのよね。でもあたし、あんたみたいな悪魔っていてもいいと思うの。」
二人が話しています。失敗した悪魔はまた鏡の中に帰されるのです。でも鏡をあわせればまたあえます。あなたもそんな悪魔にあつてみませんか。

(文化専門委員・福島光信)

訂正 十一月号本欄において、(悪魔)を(悪魔)と訂正しお詫び申し上げます。

良書紹介

『日本人の病気観』

—象徴人類学的考察—
大貫恵美子著

宗教は病いの苦しみと密接にかかわっている。その病いや、死や、精神療法などについて文化論の側面から詳細に考察し、漢方療法、信仰治療などを人類学的に分析し説明している。宗教活動にたずさわる人にはぜひ一読をすすめたい書である。

(岩波書店・二二〇〇円)

『人間としてみたブツダとキリスト』

山本七平著

山本七平氏が、中村元、梅原猛、秦剛平、トマス・インモース、遠藤周作、井上洋治、小室直樹氏等、仏教・キリスト教関係者と対談を通じ、日本人の宗教を浮彫りにし、日本人とは何かその輪郭をさぐる。

(原書房・一六〇〇円)

『塔』

梅原 猛著

塔、神社仏閣の成立、構造様式を通じて、おどろおどろしき権力とその歴史の断片を解明してゆく。もちろん半分以上は筆者の推論によるものであることは著者自身が述べている通り認めざるを得ないだろうが、大筋の的はずれていないだろう緊迫感がただよう。隠された十字架『水底の歌』等の著書もあわせて、筆

(日本経済新聞社・一八〇〇円)

者の情念の世界を味わってみたいかが。

『禅味滋味—精進料理一二三品—』

藤井宗哲著

かつて『精進料理大事典』を編纂し、仏教料理研究会を主宰する著者が、一二三品の料理を紹介し、逸話などをまじえた楽しい書である。寺庭の書架にもぜひ備えてほしい。料理布教、食供養のよき手引きになるであろう。

(実業之日本社・二二〇〇円)

『観音経法話(上)(下)』

高田好胤著

観音経講話の本は沢山あるが、これは日本女子大同窓会『桜楓会』に於ての講義をまとめたもので、わかり易く、種々例をあげて説明してあるのも大変よい。殊に女性の方に読んで頂きたいと思う。

(講談社・一〇〇〇円)

『みちのく古寺巡礼』

高橋富雄著

古寺や仏像といえ、奈良、京都、鎌倉などのそれをまず考えるが、本書は眼を東北に転じて、そこに存在した素朴と怪奇にみちた独特の「みちのく文化」の表情を探る。奥州藤原氏三代の栄華に彩られた東北のところがそこにある。

文化専門委員(順不同・敬称略)
宝田正道、中野東禪、福島光信、島田喜久子、阿純孝
推薦

第三回全日本仏教会囲碁大会は、左記の通り開催が決まりました。

〈日 時〉
昭和六十一年二月十四日（金）
午前十時
〈会 場〉
日本棋院（東京・市ヶ谷）

第3回
全日本仏教会囲碁大会

61年2月14日 日本棋院で

- 〈参加資格〉
全仏加盟団体所属の僧侶
- 〈参加費〉
一万円（昼食・懇親会費・記念品代を含む）
- 〈競技方法〉
①次のクラスを選択する
A（五段以上）、B（三・四段）、
全仏文化部まで
- 〈後 援〉
大会終了後、表彰式を兼ねて行う
財団法人 日本棋院
仏教タイムス社
- 〈申込締切〉
昭和六十一年一月三十日
- 〈問い合わせ〉
全仏文化部まで

基本法第二波中央
総決起集会ひらく

一万人が参加して

部落解放基本法制定要求国民運動中央実行委員会（会長大谷光真・浄土真宗本願寺派門主）主催の第二波中央総決起集会が、去る十月二十九日、雨が降る東京・日比谷野外音楽堂で、約一万人が参加して開かれた。

全日本仏教会評議会及び新年懇親会を、来る昭和六十一年一月二十九日（水）に東京グランドホテルにて開催します。

全仏理事会・評議会
員会のお知らせ

- 事務局長録事 11月
- 一日 同宗連研修会参加
部落解放同盟連続講座出席
 - 五日 日宗連理事会
囲碁大会実行委員会
 - 六日 局内会議
 - 七日 宗教学人セミナー（栃木）
基本法実行委員会
 - 八日 日韓仏教交流協議会理事会出席
宗教学人セミナー（群馬）
 - 十四日 法律相談室
 - 十五日 自民党立党三十周年パーティー
上杉家本葬参列
 - 十八日 真言宗醍醐派管長本葬参列
基本法実行委員会
 - 十九日 真言四宗派同和研修会出席
 - 二十日 局内会議
 - 二十一日 東京都副知事と会見
駐日ネパール大使歓迎会出席
 - 二十二日 全日仏婦大会出席
神奈川県仏青大会出席
宗教学人セミナー（神戸）
 - 二十五日 基本法について記者会見
 - 二十六日 全仏改革委員会
基本法実行委員会
 - 二十七日 全仏会長・副会長推戴委員会
常務理事会
 - 二十八日 宗教学人セミナー（和歌山）
同和委員会
 - 二十九日 自民党と会谈
 - 三十日 カンジー首相歓迎会出席
文化会議運営委員会
基本法実行委員会

年末年始の事故防止

警察庁からのお願い

「年末年始における雑踏事故の防止について」という要望書が、十一月八日付で警察庁保安部長から全仏理事長あてに届けられました。これは、初詣、初興行等へ多数の人出による混雑が予想されるため、地元警察との連絡を密にして、事故防止に万全の措置を講ずるよう要望するものです。

昭和61年版

全仏手帳

申込み受付中

全仏総務局では、左記要領にて、「全仏手帳」を発行します。部数に限りがございますので、御注文はお早めに。

- 内容 三掃依文、四弘誓願、宗門聖日、加盟団体役員住所録、忌日早見表、その他
- サイズ 9×14 cm
- 定価 六〇〇円（送料実費）
- 申込先 東京都港区芝公園四一七一
四 全仏総務局
「全仏手帳係」宛